

# 裏

## されたくらし

### 新自由主義の現場から

新型コロナウイルス感染症の流行下で迎える3度目の新年度を前に、ハローワーク上野(東京都台東区)前で、利用者に生活の状況や政治に求めることを聞きました。

(新井水和、小椋花恵)

花曇りで肌寒い一日となった29日、職を求めの人たちが、ぼつりぼつりとハローワークのドアをくぐります。

### 住むところはない

「住むところがないので住み込みの仕事を探している」といふのは40代の男性。12年ほど前に刑務所を出てから、短期契約で建設の仕事に就いて



ハローワーク上野には求職などのため多くの人が来ます。29日、東京都台東区

# 生活苦 重い社会保険

## ハローワーク前「最賃上げてほしい」

出所後は野宿生活。冬の夜は段ボールを体に巻いても寒くて眠れないので、昼間に日の当たるところで睡眠をとります。宿泊について聞くと「野宿しかない」と話しました。

同区に住む別の男性(62)は「条件があえばどんな仕事でもいいから働きたい」と話します。リサイクル工場で働いていましたが、事業縮小で今年1月に解雇され、失業保険で暮らしています。

「家賃が9万円、駐車場代が2万8千円で、あつこつ間にお金がなくなくなってしまふ」。男性はかつて印刷会社に35年以上勤務し、年収は500万円ほどありました。しかし「換気悪化で自主退職を迫られ、その後は職を転々としました」。生活が苦しいため食費を削っている。消費税の廃止と最低賃金の引き上げをしてほしい」と訴えます。

同区在住の女性(28)は「コロナの影響でお客さんが来ないので、2年間働めた薬局を辞めざるをえませんでした」と話します。「実家に住んでいるので、すぐに暮らしが困ることはありませんが、税金や社会保険料の負担が重い」

茨城県取手市から来た男性(74)は「退職したらゆっくりに暮らそうと思っただけで、だめだね」といいます。妻と娘と高校3年生になる孫の4人暮らし。年金収入もありますが、食べていくには、厳しいため、パートタイムでマンシヨンの管理の仕事をしています。手取りは月10万円。娘の収入は安定していないため、より長時間働ける仕事を探しています。

「孫は来年受験を控えている。学費も高く、いまからお金をためておかなければならぬ。学費がもっと安かったらいいのだ」

東京都葛飾区からきた高校を卒業したばかりの女性(19)は「仕事の適性について相談しにきた」といいます。読書が趣味で、事務系か書店の仕事を希望しています。

「本屋のアルバイトはあるのですが、高卒で正社員の求人はない。親に4月からケータイン代くらいは払ってねと言われて、早く仕事を決めなきゃと焦ります」と打ち明けました。